

課題分析標準項目基本情報に関する項目

No	標準項目名	基本情報
1	受付年月	令和 7年 5月 10日
	受付対応者	
	受付方法	自宅訪問
	氏名・性別・年齢・ 住所・電話番号	町田史郎氏 男性 75歳 M市○町○丁目○番地
	家族状況	妻と長女の3人家族。妻(72歳)との二人暮らしで、妻は脊柱管狭窄症で腰痛や下肢のしびれがあり、身体介護は困難。長女(50歳)は結婚して隣町に在住。今回の退院を機に泊まり込みで介護することとした。 本人の両親は他界し、兄弟はなし。
2	これまでの生活と 現在の状況	S市で出生し、現在まで過ごす。高校卒業後、飲食店に勤める。 勤務先で妻と出会い結婚。1女をもうける。 結婚後、家業である飲食店を継ぐ。従業員10名ほどのお店で、地元はもちろん、他県からも来店客がいるほどの人気店となった。テレビ中継もされるほどであった。店内には有名人のサインが飾ってある。 最近、体調が悪い時もあり、かかりつけ医を受診したところ、総合病院に紹介され、検査入院となった。結果、胆管がんと診断された。 現在、ベッド上で寝ていることが多いが、手助けを受けて生活している。
3	利用者の社会保 障制度の利用情 報	後期高齢者医療保険 身体障害者手帳:なし 年金:国民年金 その他:家賃収入あり
4	現在利用している 支援や社会資源 の状況	なし
5	日常生活自立度 (障害)	C I
6	日常生活自立度 (認知症)	II b
7	主訴・意向	本人:自宅に戻り家族と生活したい。地元のお祭りに参加したい。せめて目の前で見てみたい。 妻:急なことで気持ちが追いつかないこともあるが、家族に囲まれて自宅で穏やかに生活させてあげたい。 長女:母も持病を抱えているため体調面に不安がある。私ができるだけ泊まり込みで介護していく予定。
8	認定情報	要介護3 有効期限 令和7年4月1日~令和8年3月31日
9	今回のアセスメン トの理由	新規依頼のため、初回アセスメント がん末期の在宅支援

アセスメントに関する項目

No	標準項目名	基本情報
10	健康状態	末期の胆管がん。本人・家族へ告知済み 腹部膨満感、下腿浮腫が顕著 食欲不振のため低栄養状態
11	ADL	○寝返り：ベッドの手すりをつかまり寝返る。 ○起きあがり：ベッドの手すりをつかまりながら起き上がる時もあるが、電動ベッドで起き上がる時もある。 腹水貯留および下腿浮腫があり動作緩慢 ○移乗：一部介助 ○歩行：室内は何とかつかり歩行 室外は車いす介助 ○排尿・排便：尿便意あり。 ○更衣：一部介助 ○入浴：一部介助 ○洗身：一部介助 ○食事：自立 ○洗面：自立
12	IADL	○調理：全介助 ○服薬：自立 ○掃除：全介助 ○洗濯：全介助 ○整理・物品の管理：全介助 ○金銭管理：全介助 ○買い物：全介助
13	認知機能や判断能力	何らかの認知症を有し、日常生活は何らかの手助けが必要である。
14	コミュニケーションにおける理解と表現の状況	問題なし。
15	生活リズム	一日中ベッド上にいるが時折座ったりトイレのため室内歩行。 1週間同じ生活。 朝6時起床、22時には床につくが夜間日中も寝たり目覚めたり不規則。
16	排泄の状況	尿便意あり。動作緩慢のため間に合わず失禁がある。
17	清潔の保持に関する状況	入浴はシャワーを介助で浴びる。2回／週。 整容は自分でひげを剃り、タオルで顔を拭く。 寝具は長女が購入した電動ベッドを使用し、羽毛布団を使用。 衣服はパジャマを着ている。ズボンは3Lのゴムのウエスト。 毎日着替えている
18	口腔内の状況	毎朝、自分で歯磨きをする。義歯なし。
19	食事摂取の状況	食事量は少ないが、用意すれば自力摂取可能（プリンやゼリーを数個／日、めん類を茶わん数杯／日、お茶や水を水筒200mL／本を1日に3本）。
20	社会との関わり	長年飲食店を経営しており、友人が多い。

		町内会の役員をしていた。
21	家族等の状況	主介護者は長女、健康であるが初めての介護のため不安がある。長女は市役所の事務職。介護休暇を利用したいと考えている。 病院から介護指導を受けている。長女の夫は妻の介護を応援しているが、妻（長女）の生活が犠牲になるのではないかと心配している。
22	居住環境	3階建ての持ちビルの2階に居住。3階は従業員が住んでおり、店は従業員に任せている。 室内は段差解消を行っているが、手すりなどの設置はなし。
23	その他留意すべき事項・状況	胆管がん末期で予後不良。急激なLDHの上昇により、腫瘍崩壊症候群のリスクがある。 がん末期であり、現在は安定期にあっても急激に悪化、亡くなる可能性がある。

※住宅の見取り図(必要に応じて)

段差:▲



長崎県介護支援専門員協会（転用禁止）